

# 中学受験のトライ

学力確認

単元別強化

応用力養成

過去問対策

## ◎ 年間スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
行事	トライ模試	トライ模試	トライ模試	トライ模試	トライ模試						
トライ対策スケジュール	トライの夏特訓		過去問対策・応用力養成			入試直前の冬特		入学直前対策			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状学力の確認 ⇒4教科の単元別詳細まで</li> <li>・学習習慣の改善 ⇒学習の意識・習慣改革</li> <li>・苦手単元 ⇒夏休み中に苦手は克服</li> </ul>		過去問を通じ、合格最低得点をコンスタントに取れるようにしていきます。  受験校の過去問の特徴を見て、対策をとります。  難しい問題にも積極的に取り組みます。			もし、合格ラインに達していない生徒には、出来る限りの時間を頂き指導します。		合格で一安心ですが、入学後を見据え、苦手分野の復習・中学の先取り授業を行います。			
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生の学習範囲を1ヶ月で総復習及び苦手単元抽出。苦手単元を理解させるための基本を徹底授業。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数・理科・国語の応用・発展演習⇒分野別に応用問題に挑戦</li> <li>・社会の基礎分野演習⇒問題集を使って習得。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>算数：文章問題演習。理科：物理・化学系統。国語：随筆問題の応用問題。歴史・地理の基礎分野を問題集を使い習得。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試重要分野の総復習⇒例)算数：図形難解問題 国語：随筆的長文問題</li> <li>・実力テストで習熟チェック。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>過去問を徹底して反復することで、入試の出題パターンを習得。ケアレスミスの防止等実力を100%発揮するコツを伝授。</li> <li>中学校では、公立中学校の1.2倍～1.5倍のスピードで授業がどんどん進みます。中学校内容の先取りを実施します。</li> <li>・課題フォロー⇒中学校から出された宿題のフォローを行い、100%理解した上で提出することを目標します。</li> </ul>	
			<b>理科・社会科目対策</b>  過去問で、目標点数を確実に取れるまで徹底。								

## ◎ 中学受験のトライ 入試攻略ポイント

国語	算数に時間をかけがちですが、同じく重要な教科です。国語は勉強すれば、ある時点を境に成績は急激に上がります。しかし、やればすぐに上がるという教科ではないので、忍耐強く続ける事も必要です。中学でも高校でも文章の読解力は必要ですし、1度上げておくとも国語力は落ちにくいものですので、小学生のうちからしっかりと読解力を身に付けることで、中学受験の成功と同時に、中学生以降の国語の勉強を楽にしていきます。
算数	中学受験において、1番のポイントとなる教科です。特に上位校を目指す子にとっては、深い理解と高い思考力も要求されます。大人が解こうと思っても、普通の大人には解けない問題です。1問1問の問題を確実に解けるように指導します。しっかりと時間をかけ、深い理解をさせていきます。また、高い思考力を養うために、図に落とし込む練習・先生に逆に説明させるという指導も行います。
社会	社会の勉強は、その『勉強の仕方』で結果は大きく変わります。授業、暗記、問題演習のバランスが重要です。授業：45%、暗記：30%、問題演習：25%の割合がベストです。世の中には中学受験の社会専門の業者様もいます。入試は総得点で合否が決まりますので、当然です。『社会・理科は暗記だから授業はいらない』と仰る方も多いですが、結局社会・理科で失敗するというパターンの子もいます。合格を考えるのであれば、社会・理科こそ授業の時間をしっかりとりたいものです。
理科	理科の勉強について、『暗記ものだから…』と、「根本原理」を理解しないまま、ただ単にむやみやたらに問題演習ばかりしている子は、後々、伸び悩みます。算数と同様、『なぜそうなるのか?』という事をしっかりと理解した上で問題演習をしないと、応用問題には対応できません。特に上位校を狙う子にとっては、しっかりと、原理を理解させるための授業は必要です。
英語	合格後に英語についての指導も行います。

## ◎ こういう生徒にお勧め!

- ・私立中学受験を考えている生徒
- ・公立中高一貫校受験を考えている生徒
- ・塾だけでは不安がある生徒

## ◎ 対象学年

小学6年生 (4・5年生)

## ◎ 指導の進め方

志望校別に、  
 ①ご本人の現状学力  
 ②志望校の必要偏差値・得点  
 ①②を分析の上、合格の為に必要な指導時間を割り出し、具体的な目標を持って指導を行います。また、過去問での点数を元に、本番までの必要時間を割り出し、最後の追い込みをかけます。